

発行

宮城県こもれびの森 森林科学館  
〒987-2512 宮城県栗原市花山草木沢角間 10-7

TEL&FAX 0228-56-2330

http://mifi.main.jp/komorebi.htm



## イベント報告 -ウッドランドクラブ5月-

### ～山野草観察と石窯でピザを焼いてみよう!!～

5月のウッドランドクラブは、「山野草観察と石窯でピザを焼こう」というテーマでした。当日28日(日)は、天候にも恵まれて楽しいひと時を過ごすことができました。

一桧山遊歩道での山野草観察は、この時期らしい野草の花が咲いていて、新緑のなかお目当て山菜もたくさん見つけることができました。何度参加しても、新しい発見がある、との声も聞かれました。

一桧山から科学館に戻り、「交流会」を持ちました。参加された方々に講師の先生



＜一桧山の散策＞

から山野草の説明や、山菜の調理法などについてお話がありました。山菜を当てるクイズなどもあり、大変盛り上がりました。

最後は石窯でピザを焼く体験でした。トッピングはお好みで、山菜なども利用しました。出来上がりはアツアツで、ピザ屋さん顔負けの出来上がりでした。このピザを目当てに参加される方も多くなっています。草花は苦手でも、食べる方は得意な方の参加もお待ちしております・・・



＜山菜がいっぱい＞



＜焼きたてで～す＞

## こもれびの森の かわいいことりたち

こもれびの森サポーターで  
専属ことりカメラマン(?)の  
大友さんのコーナーです

### “いろいろな小鳥”

- ①カルガモのペア
- ②Oiさんが発見、カルガモの卵かも
- ③小魚をくわえたカワセミの雄。
- ④北へ帰るマヒワの雌、旅に備え実を食べています。
- ⑤渡ってきたクロツグミ雌です。(大友)



＜①＞



＜②＞



＜③＞



＜④＞



＜⑤＞

## 生き物いろいろ



～身近にいる小さな虫たち～

### “石鱈の家”

今の時期は、木の枝や草の茎などに泡が付いているのを頻繁に見かけます。

何となく体に触れるのを避けたりしていますが、この泡はセミの中間の巣です。見た目どおり「アワフキムシ」と言い、幼虫は植物の汁を吸って余分な水分(オシッコ?)で巣を作っています。巣は粘りがあり丈夫で雨風にも飛ばされにくく、日照りにも強くて鳥や他の昆虫からも身を守る術が備えています。

石鱈のような成分や泡立ての仕組みなどの研究が進めば人間社会にすごく役立つものがありそうです。

アワフキムシいわく「カニの泡と一緒にしないで」。(は)



＜アワフキムシ①＞



＜アワフキムシ②＞

## まめちしぎコーナー “花や木などのチョットした知識”

### ～違いはどこに!? アヤメ・カキツバタ・ハナショウブ (アヤメ科)～

梅雨空の下に咲くアヤメやカキツバタなどアヤメ科の花はよく似ています。アヤメ科は種類も多く園芸種も豊富で、区別が付きにくい花です。アヤメ科の花の作りは、大きく目立つ3枚の「ガク」(外花被)と小ぶりな3枚の「花びら」(内花被)が特徴です。

区別のポイントは花被(花びら)の根元にあります。アヤメは根元に網目模様があり、比較的水はけのよいところに生育します。カキツバタは最も水を好み、湿地や池に生育し、花被の根元に細長い白い模様があります。ハナショウブは園芸種ですが、乾いた場所から湿地まで生育し、花被の根元に細長い黄色の模様があります。これらの花は園芸種も数多く色も様々で迷うことがありますが、花被の根元をよく観察すると区別がつかます。

「いずれアヤメかカキツバタか…」ということわざがありますが、これはある武将が美女を賜ることになり、選ぶ際にどちらも美人で迷ったという故事にちなんでいます。本物の花の方も迷ってしまうほど似ていることは確かなようです・・・(千葉)



＜アヤメ＞



＜カキツバタ＞

## 科学館情報

### ゲートが開きました!!

森林科学館前の県道249号(岩入一迫線)が4月末に開通しました。一年半ぶりの開通で、山菜など求めて奥に入る車が多くなったようです。さて、この県道沿いや国道398号線沿いに当館の案内板が立っています。全部で二十数ヶ所に設置しています。

設置は当館のサポーターのSさんで、花山在住の方です。地元の方なので、ポイントを外すことなく設置していただいています。この案内板を見ての来館者もあます。入館無料というところが受けているらしいです・・・



＜案内板＞